特116
88

神戸女學院大學部教授
神戸市立教員養成所講師 横川四十八著

高等精神檢査法說明書

始

特116
88

目次

第一章　緒言……一
第二章　甲種檢査法說明……四
第三章　甲種檢査採點法……一六
第四章　乙種檢査法說明……一九
第五章　乙種檢査採點法……二九

大正
12. 2 22
內交

高等精神檢査法說明書

横川四十八著

第一章　緒言

此の說明書は學校、工場、會社、軍隊等にて團體的に精神檢査を施行する際の說明を中學一、二年程度(乙種は小學校五年程度)を目標として記述したものである。之を使用せらるゝE(檢査人)はS(被檢査人)の教育程度の差、職業、方言等の別に應して用語を變更せらるべきは勿論の事であるが、いづれにしても愼重に用語を選擇して口語體に綴り置き檢査施行前に數回熟讀せられたる後實施せらるるがよろしい。心理學の素養があつて精神檢査の經驗を積まれたEにては說明書を誦讀して檢査する必要のない場合もありませうが通常特に二人以上のEが協同

して多數のSを取扱ふ際はSの監督を同僚又は助手に依頼して宛も話して聞かす
る樣に說明書を讀まるゝのが最も安全な方法である。
之を個人檢査に用ひる場合にはSの年齡、敎育程度等に應じて僅少の部分的變
更で充分であるが豫め用意して置いた說明書を熟讀してSに臨まなければならぬ
事は同樣である。亦時間の制限を延長して試みるも更に時間の制限を無視しても
よいのである。其故は兒童の天性には遲きも仕事は正確になし遂ぐる者もあるか
らである。團體檢査の一短所は、學者間に種々の議論もあるが、矢張時間の制限
に重きを置く爲めに仕事の質を充分に認め得られぬ場合のある事である。
檢査の際Sの座席、机の高さ等は其身體發達に應じてすべて適當で充分安易を
感じ得るものでなくてはならぬ。机、腰掛の寸法がSの身體に不適當で窮屈であ
つたりすると其Sは決して充分自己の可能性を發揮する譯にはゆかぬ。
採光、換氣、温濕度の如きも机、腰掛と同樣檢査の結果に斟なからぬ關係があ
りますから日光のぎらぎら直射するところや早朝薄暮等光線の不充分な場合、嚴
寒、炎熱の際は充分な調節裝置のないところでは檢査を見合す方がよい。
EのSに臨む音容體度等も亦Sの智能發表の上に影響するものであるから、Eは
努めて温顏を以てSに接すべきは勿論であるが又他方に於てはSの陷り易き種々
な誘惑を防止する爲め監視取締等の必要なる事を忘れてはならぬ。故にEは其威
嚴の犯すべからざるものあるを示すことも甚だ必要なことである。
一回の檢査に適當なSの人數はEの能力に應じて變化すべき筈であるが通常一
回三十人までを適度とする。夫以上を一度に檢査せんとする場合には必ず助手を
賴みSの監督並に時間の計量に當らしめるがよいと思ふ。決して多數の參觀人が
あつてはならぬ。已むを得ざる場合の外はEも机間巡視をせぬがよい。
ヘンリイ、ゴッダアドは三百人までは同時に檢査することが出來るといつて居
られるがそれは餘程完備した檢査場で熟練忠實な助手のある場合でなければ多く
は結果の信憑すべき程度が減少する。
以上緒言として略述したことはよく著者が八年前より經驗して來た體驗から書

いたのである。

第二章　甲種檢査法說明

E「今から精神檢査をします。それはこゝにある(Eの机上に積み重ねてある受驗人の人數に應じて用意してある用紙を指し)薄い本を一册づつ皆さんに配附して答を記入して貰ふのです。いひ附けられるまでは決して紙をまくつてはならぬ」

「まづ鉛筆を二本と消しゴムとを出して置きなさい」

Eは助手と共にSの各自に用紙を配附しても宜しいが多くの場合には左の如き規律ある方法に依るが宜しい。

E「今皆さんの前列の者に各其列の者の分を全部渡しますから一部取つて高等精神檢査法と印刷してある表紙を表に出して机の中央に置き殘りを皆後に渡しなさい。後の者は順次一部づゝ取つて前の者のした樣に表紙を表にして各自の机の

眞中に置きなさい。

「なるべく早くなさい。

用紙の配附せらるゝ間E及び其助手は壇上より全部のSを監視し命を奉じないで表紙を捲り問題を窃見したりする者があつたら直に之を制止し其氏名の上に×の印を附し採點の際の備考にするがよい。

用紙の配附が終りたらばEは左の敎示をするがよろしい。

E「今皆さんが受取つた用紙の表紙の受驗人氏名と印刷してあるところの下に各自の學校名、學年、氏名、生年、月、日、を記入しなさい。記入が濟むだら直に鉛筆を置きなさい。

EはSの氏名記入が終るのを待ちて、

E「これから檢査について說明をしますからよく注意して聞いて居なさい。

E「問題は九種類に別れて居て合計百八十題あります。皆さんが一種づゝ同時に始めて同時に終るのです。今から一種づゝについていひ聞かせる說明をよく聞

きいひつけをよく守つて下さい。」

一種類づゝ檢査を始める前に仕方を説明しますから其説明中は鉛筆を擱いて居なさい。説明が終つて「始め」といふ合圖をしたら直に問題を默讀して成るべく早く答を書き入れるのです。同じ説明は決して二度しませぬからよく注意して聞いて居ねばならぬ。決して質問をしてはならぬ。わからぬ事があつたら紙面の初めに書いてある例や其説明を讀みなほして見るがよろしい。すべて自分で考へて信ずる通りに決行しなさい。他人の紙を見てはならぬ。自分の紙ばかりを御覽なさい。「止め」といはれたら直に鉛筆を擱きなさい。も少し書きたいと思ふ事があつても決して躊躇してはならぬ。(又Eは其助手は檢査中監督を嚴にしいひつけをきかぬ者があつたら直に其氏名の上に×の印を附し採點の際其部分を無效にする場合がある)すべて急がずに併し出來るだけ早くするのです。

それで皆さんの守らねばならぬ事を念の爲め一度簡單に申します。それは四ケ條になります。

第一、「始め」といふ合圖のあるまでは決して鉛筆を用ひてはならぬ。「止め」といはれたら直に鉛筆を擱かねばならぬ。

第二、決して質問してはならぬ。

第三、決して他人の紙を見てはならぬ。

第四、いひつけられるまでは決して次のページを見てはならぬ。

「御判りになりましたら表紙を捲りなさい。

第一　命令の實行

EはSがすべて鉛筆を下に擱いて居るのを確めたらば左の敎示を與へる。

E「第一の檢査はあなた方がどれほど命令に從ふことが出來るかを見るのです。紙の右の端にあるい、ろ、は、と例と其答とを御覽なさい。

い、ろ、は、の第五番目の文字を書きなさい。

といふ命令があります。いろはの第五番目の文字はほですから括弧の中にほと書いてあります。

今説明した樣に各の問題の下に括弧がありますから其中に平假名を書き入れて答へるのです。私が「始め」といひましたら一番から始めて丁寧に問題を讀んで其答を書き入れ「やめ」といふまで丁寧に各の問題を讀んで答を括弧の中に書き入れなさい。皆は出來なくても出來るだけ正しい答を早くする樣に精一パイなさい。」

「始め」から「やめ」までの時間は六分です。

「始め」……六分。（但し二分を經過せる時、其紙を捲くつて次のページを見てもよろしい」と教示する。）……「やめ」。

第二　反對の發見

EはSがすべて鉛筆を摺いて居るのを確めたならば

E「その紙を一枚だけ捲つて第二、反對の發見、とあるところを御覽なさい。今度の檢査は皆さんがどれほど或る言葉の反對の意味の言葉を發見することが出來るかを見るのです。紙の右の方の例題の第一を御覽なさい。「上」といふ字が書いてある。「上」の反對の意味の文字は何ですか。「下」でせふ。それで括弧の中の五

ツの文字の中で「下」の字に傍線が附けてある。これは上の反對は「下」であるといふ意味です。第二例を見ると上に熱といふ字がある。其下の括弧の中の寒の字に傍に線が引いてある。それは熱の反對は寒であるといふ意味なのです。

「始め」の合圖をしたら始めて「やめ」といはれるまで續けなさい。「始め」から「やめ」までは一分三十秒間です。

「始め」……（一分三十秒）……「やめ」。

第三　不順序文

E「一枚捲くつて第三不順序文のところを出しなさい。」

「こゝに書いてある文章は皆文字の位置が間違つて書いてある。第一例の「人は」「働く」「ために」「生活する」では文字の順序が間違つて居るから意味が判りませぬ。けれども若し文字の置き場所を少しかへるとよく判る文章になります。即ち「人は生活する爲めに働く。」とすればよろしい。そして其文章の意味は事實を示して居るから眞實である。故に括弧の中の眞の字の右の傍に線を附けてある。

又第二の例を見ると「山の上へ」「行く」「川が流れて」となつて居る。この文の文字の位置を換へて「山の上へ川が流れて行く」として見ると其意味は判る樣になるが事實を示して居ないから括弧の中の僞の字の右に傍線を附けてあるのである。」

「以上の二ツの例の樣にあとの文字の順序を間違へて書いてある文の文字を順序好く列へ直し意味の判る文章にしてそれが事實を示すものになれば括弧の中の眞といふ字の右の傍に線を引き若し事實を示す文章にならぬならば僞の字の右の傍に線を引きなさい。」

「時間は一分半です。」

「始め」……(一分半)……「やめ」。

第四　諺

こゝに諺が十個ヅヽ二組ある。前の一組の諺の一ツ一ツの意味は其次にある十二の文章で示してあるのですから十二ヅヽの意味を書いた文章の中には二ツヅヽ無用なものがある。即ち其前にある十個の諺の中のどれにも關係のない文章が二ツヅヽあるのである。

「此の檢査は十二の諺の意味を書いた文章の中から其前の諺の一ツ一ツの意味を書いたものを捜し出して其文章の番號を之に相當する諺の上の括弧の中に書き入れる事を求めるのです。」

「時間は六分である。隨意に其紙をまくつて次のページを見てもよろしい。」

「始め」……(六分)……「やめ」。

第五　幾何圖形

「第一圖を御覽なさい。第一圖は圓と長方形との組み合せである。其中に1.2.3.の數字が書いてある。圓の中であつて長方形の中でないところにある數字は何ですか。といふと1.である。それで括弧の中に1.と書いてあります。さういふ風に各の問題を默讀して答の數字を括弧の中に書き入れるのです。」

「時間は六分です。」

「始め」……(六分)……「やめ」。

第六　常識

次のページを出しなさい。

今度は皆さんの常識について檢査するのです。第一例を視なさい。「犬は好んで草、豆、菓物、肉類を食べる。」とある。この肉類の傍に線の附けてあるのは犬は好んで肉類を食する動物であるといふ意味です。つまり第一例は犬は何を好んで食べるかといふ問に對して草ですか、豆ですか、菓物ですか、肉類ですか、といふ四ツの答の中肉類ですといふのが正しい答であるといふ意味を示して居るのです。同じ樣に第二例では一年を日數にすれば幾日になるか、といふ問に對して二百十日です。三百六十五日です。三百五十日です、三百八十五日です、といふ四ツの答を示して其中で三百六十五日が正しい答であるといふ意味なのです。

以上二ツの例に示した樣に文章の意味が正しい答を示すもの即ちほんとうの事實を示すものになる樣に文字の傍に線を附けるのです。

時間は一分です。

「始め」……（一分）……「やめ」。

第七　算術

次のページを出しなさい。

今度は算術の問題を成るべく早く然し精一パイ間違はない樣にして答の數字を問題の下の括弧の中に書き入れるのです。大抵は心算でなさい。しかし心算で出來ないのがあつたら紙のぐるりの字の書いてないところで運算をしても宜しい。

時間は六分です。

「始め」……（六分）……「やめ」。

第八　比論

次のページを出しなさい。

今度は皆さんがどれほど物の道理を推し考へる事が出來るかを試るのです。

第一の例について見ると指の手に對する關係は足指の何に對する關係に等しいかといふ問に對する答即ち？（Eは板書しながら）の印のあるところに書くべき文字を其の行の下にある文字の中から搜してそれに傍線をつけるのである。第二例は第一例に準じて考へなさい。

例の第三について見ると例の一又は二とは？印のあり場所が違ふ。これは高いのが低いのに對する關係は何が肥て居るのに對する關係に等しいかといふ意味であつて？のあるところには瘦又は瘠或は假名で「やせ」と書くのである。（Eは板書しながら）

時間は二分三十秒である。

「始め」……（二分三十秒）……「やめ」。

第九　類似點の發見

最後のページを視なさい。

今度は皆さんがどれほど物事の類似して居る點即ち似合ふて居るところを考へ出すことが出來るかを檢査するのです。

例の第一を見ると上の方に帽子、カラア、手袋とあつて其下に手、杖、首、靴、家と書いてある。そうして其靴といふ字の右に傍線が附けてある。これは上の三ツの文字即ち帽子、襟輪（カラア）、手袋はいづれも身體につけるものである。下の五ツの文字の中でこれに似合ふたものは靴である。その故は靴は矢張人の身體に着けるものであるからである。即ち各の問題の上部の三字（又は熟語）の意味に類似して居る意味の文字は何であるかを下の方の五文字（又は熟語）の中に索めて傍線を附けなさい。

時間は一分三十秒である。

「始め……（一分三十秒）……「やめ」。

檢査を終つたならE及び助手は速かに用紙を集めてS平素の習慣に從ふて解散せしめる。

第三章　甲種檢査採點法

採點者は先づ正しき答を左の如く表にして座右に置き答案を注意深く採點しつゝ正しき答を暗記せむ事を期するがよい。著者の經驗に依れは三十名を採點する間には暗記し得るのである。但し暗記の確信を得るまでは斷へず表と比較して錯誤のないやうにせなくてはならぬ。

高等精神檢査法甲種正答表

種類＼番號	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九
一	も	南	眞	三	3	土曜	36	馬	赤
二	な	然	僞	六	2	赤	9	女	桃
三	み	項	眞	一	5	魚肉	10	彫刻師	鉢
四	まない	前	眞	二	10	蠅	15	雛	野羊
五	い	雖	僞	十	7	舟	18	鋼鐵	自轉車
六	と	味方	眞	四	1	ステニ	10	膝	乘る
七	い	成功	僞	五	11	雖	120	娘	刈る
八	ほ	弱	僞	十二	12	二月	30	温度	手拭
九	ら	醜	眞	十一	5	原敏	5	馬車	楕圓
十	き	命令	眞	七	1	コトル	240	花瓶	改造
十一	ち	喜	僞	四	7	礦山	20	平和	通信
十二	ほ	伸	眞	一	5	大黄蜂	1	蒸氣	欺
十三	へ	僞	僞	十	8	薔薇	36	太陽	愛
十四	そ	愛	僞	二	13	近畿	45	燃料	孝
十五	た	斥	僞	十二	3	臺灣	33	パイプ	
十六	き	浪費	眞	六	10	四	45	銀行	
十七	か	生	眞	三	3	魚の子	6	神經	
十八	ほ	忠義	眞	八	7	ヴスチイソン	50	市會	
十九	み	恥	僞	五	1	一錢五厘	8	約	
二十	る	不定	僞	九	21	世界平和	10	ペン	
廿一						學者		味	
廿二								幸福	
廿三								生理	
廿四								軍備縮少	

各題の配點は一點づゝであつて決して半點などを與へない。第四、諺の外はすべて訂正、抹殺等Sの自由である。第一乃至第五は各二十題であるから二十點づゝ、第六は廿二點、第七廿點、第八廿四點、第九十四點、合計百八十點が滿點である。採點の際答の正しきものには✓又は×など便宜の符號を附けて紙面の隅にある＝の上に其小計を記し表紙の相當欄内にそれ〳〵記入して合計を算出するがよい。

第一種（命令の實行）の檢査に於ては平假名で括弧の中に記入する樣に要求せられて居るのに總べて片假名又は變體假名で記入した者は計に於て一點を減せらる。啻にこの事ばかりでなく總べて不注意頑固等より第一章に記した四ケ條の規定（七頁）を嚴守しないものを發見した場合にはE又はEの助手は直に其檢査の種類に×の符號を記し其檢査の得點より一點を減ずるがよい。

第二種（不順序文）の檢査に於ては答が眞僞のいづれか一方を選擇すればよいのであるから往々推量して偶然の適中を期するものがある。故に其採點法は左の例

に依るがよい。廿題の中十題は正答で殘りの十題中五題は推量したるもの五題は解答せなかつたとする。而して五題の推量したものゝ中三題は偶然適中し二題は適中しなかつたとすれば正答が十三題ある。併し其十三題中三題は理論上點を與ふべきものでないから 13－3＝10 十點となる。同じ道理で廿題全部を推量で傍線を附し十題は偶然適中し殘り十題は適中しなかつたとすれば 12－12＝0 零點となる譯である。要するに、正答の點數より不正答の點數を減じたるものを得點とするのである。

一ケ所にのみ傍線を引けばよいのに二、三ケ所も引いたりした場合は答へなかつたと同樣にする。

若し括弧の中に書くべき答を他の處に書いたり、傍線を附けよと命令せられて居るのに十文字を附けたりするなど教示に服從せなかつた場合は一般に一種類の得點中より一點を減ずる。

此の檢査法による智能の標準は大略左の通りである。

	大人（中學卒業）	兒童（尋常小學校卒業）
檢査員	四八	二七六
最高	一七二	一四六
中數	一〇〇	六〇
最低	四四	二二

第四章　乙種檢査法說明

甲種は文字の運用に長じたるものは其智能を發揮し易く、さうでないものは充分に其智能を發表することが出來ない。更に無教育者になるとたゝへ優良な素質を有するものでも決して甲種の檢査に應ずることは出來ないから文字の運用に長じて居ないもの又は無教育者には繪畫のみに依る檢査が必要である。公平を期する爲めなるべく一般に甲種にて檢査した後二、三日を經過したる後甲種檢査の時

と同一時に同一の場所で同一のEが乙種を以て檢査するがよい。著者は數回甲、乙を前記の如く併せ試みて得るところが多かつた。但乙種は八歳以上の兒童から大人までに使用する事が出來る。

「今皆さんの机の邊に(Eは實際を指なしながら)大小二枚の紙を置きます。皆さんは紙を捲らずに其儘にして描いてある繪を隨意に御覽なさい。

今紙の上のところに皆さんの姓名、生年月、學年を書きなさい。(小學校一、二學年は此の記入をさせなくてもよい。)

私はこれから皆さんにして貰ひたいことがあるのです。その中には大さうやさしい事も亦六ケ敷事もあるのです。皆さんはその全部は出來なくてもめい〳〵精一パイよくして下さい。

皆さんにして貰ひたいと思ふ事は皆さんが見て居る繪の間に線を引いたり、印(しるし)を附けたりすることなのです。よく注意して私のいふ事を聞いて下さい。決して質問をしてはならぬ。決して他人の紙を見てはならぬ。唯自分の紙ばかりを見て

居なさい。

第一　檢　査

皆さんの紙を御覽なさい。皆さんが姓名を書いた所の下の方に澤山の繪が列をなして描いてある。一番初めに一人の女の子と花とが描いてある列にあなたがたにして貰ひたいことがあるのです。それを仕舞ふたら龜と蟾蜍と鳥とが描いてあるところに、其次には菓物の描いてある列に其次には兵隊がかいてある列に、といふ樣に一番紙の下の列まで一列づゝ皆さんにして貰いたい事があるのです。

「やめ」といはれたら皆さんは直にやめて鉛筆を揚げるのです。そして「始め」といはれるまでは鉛筆を紙に附けてはならない。(Eは仕方を示しながら教示する。)

但し一、二學年兒童の爲めには「やめ」で鉛筆を揚げて紙より離し「始め」で鉛筆を描上に觸れしめる練習を數回行ふ必要がある。

「やめ」。

一人の女の子と花とが描いてある列を御覽なさい。(Eは此處で少し休止する。)

女の子の手の先から花(顔の鼻でない)まで線を引きなさい。

「始め」……(五秒)……「やめ」。

今度は龜の居る列を御覽なさい。龜の上に十文字を一つ、蛙の下に十文字を一つ描きなさい。

「始め」……(五秒)……「やめ」。

今度は菓物の描いてある列を御覽なさい。林檎の周圍(ぐるり)に輪を左から一番初めのバナヽの下に十文字を描きなさい。「始め」……(五秒)……「やめ」

次に左の端に猫が描いてあるところをごらんなさい。猫の手から鷲と魚の下を通つて兎の口まで線を引きなさい。

「始め」……(五秒)……「やめ」。

次に一人の兵隊が初めに描いてあるところを御覽なさい。兵隊の鐵砲の先から太鼓の下、舟の上を通つて劔の先まで線を引きなさい。

「始め」……(五秒)……「やめ」。

今度はテーブルの描いてあるところを御覽なさい。櫛の下に十文字を描きなさい。「水さし」の手から時計と靴との上を通つて桶の上端まで線を引きなさい。

「始め」……(十秒)……「やめ」。

四角と丸とが描いてあるところを御覽。四角の中で丸の中でないところに十文字一ツ。四角の中で亦丸の中であるところに十文字一ツ。丸の中で四角の中でないところに十文字一ツを描きなさい。

「始め」……(十秒)……「やめ」。

バケツが二ツあるところを御覽なさい。中位(ちゆうくらゐ)の樹の下に短い直線を横に引きなさい。コツプの周圍に輪をかきなさい。それから一番小さい木の頂から一番大きい木の頂まで線を引きなさい。

「始め」。……(十五秒)(此際コツプといふ時に特に聲を強めたりしてはならぬ。)……「やめ」。

鷲の居るところを御覽なさい。鷲の尾から狐の上を通つて鷄の趾まで線を引き

なさい。其線を延ばして樹の下を通り天狗の鼻の先まで引き、それから狐の耳まで戻しなさい。

「始め」……(十五秒)……「やめ」。

今度は柿實の描いてあるところを視なさい。ナイフの隣であつて獣や書籍の隣ではない菓物を皆抹殺して下さい。書籍の隣にある菓物には皆其上に十文受を附けて下さい。

「始め」……(十五秒)……「やめ」。

今度は蜘蛛の描いてあるところを御覽なさい。蝶の隣にある蜘蛛の下に十文字を描きなさい。又蜘蛛又は蟾蜍の隣であつて象の隣ではない蝶の上に十文字を描きなさい。

「始め」……(二十秒)……「やめ」。

今度は丸が列をなして居るところを御覽なさい。左から第一の丸から右の端の丸まで第二第四の丸の下、第三、第五の丸の上を通つて線を引きなさい。第一の

丸の中に十文字、第四の丸の上に十文字、最後の丸の中には十文字でない、何か別の印を描きなさい。

「始め」……(廿秒)……「やめ」。

第二　檢　査

(Eは實物を示しながら)あなたの前にあるこの様な小さい方の紙を御覽なさい。その紙に雁と火鉢と下駄とが描いてある。しかし三ツとも足りないところがある。雁の繪にたりないところは何か。判つた者は? (擧手、指名)。あなたがたの鉛筆で雁の目を描き入れなさい。下手でもよろしいから早く。火鉢の繪に足りないところは? (擧手、指名)。皆さんの鉛筆で鍋に把手をつけて下さい。(同様な方法で下駄に前花緒を描かしめる。)

今度は大きい紙を捲りなさい。仕方を示しながら鐵瓶、鋸などのあるページを出さしめ。

サア私の紙を御覽なさい。ここに澤山の繪がありますがどれも出來上つて居り

ませぬ。足りないところがあるのです。皆さんは「やめ」といはれるまで成るべく早く上の列から始めていつも左から右に繪の一ツ一ツ足らぬところを描き入れて下さい。上の眞中のは鋸です。これは（指しながら）ガラス窓に外からボールを投げつけて窓が破れたのです。

「始め」……四分……「やめ」。

第三　檢　査

モウ一度此の小さい方の紙を取つて上の方に樹のあるページを視なさい。

（Eは各列の左から右に徐かに指示しつ）　上の列に同様なもの、似合ふたものが二ツある。何ですか。擧手、指名。樹にはどれにも其下に短かい横棒を引きなさい。「始め」。……「やめ」。次の列には三ツの似合ふたものがある。何ですか。（擧手、指名）。花の下にはどれにも短い横棒を引きなさい。

「始め」……「やめ」。

第三列も同様な方法でS各自に充分の時を與へて此種の檢査の意義を了解せしめる。

今度は大きい紙の次のページ　Eは「此のところ」と指し示しながら」一番上の列に材木がある。そうして繪が幾列も描いてある。各の列に必ず似合ふたところのある繪が幾つかづつある。

今材木で始まつて居る列を御覽。此の列の中に二ツだけ互に類似したところのものがある。其二ツの繪の下に短い横線を引きなさい。

「始め」……五秒（第三檢査の各列はいづれも五秒づつ。）……「やめ」

次の鶉の繪で始まつて居る列にも二ツだけ同様なものがある。其下に短い横棒を附けなさい。「始め」「やめ」。

四角（正方形）で始まつて居る列にも似合ふたものが二ツあるから其下に短い横棒を附けなさい。「始め」「やめ」。

蚣蠣で始まつて居る列には三ツだけ同様なものがあるから各其下に横棒を附けなさい。「始め」「やめ」。

靴で始まつて居る列にも同様なものが三ツある。「始め」「やめ」。
洋傘(かわほりがさ)で始まつて居るところにも三ツある。「始め」「やめ」。
ピアノで始まつて居るところには四ツある。「始め」「やめ」。
梯子で始まつて居るところにも四ツある。「始め」「やめ」。
魚で始つて居る列にも四ツの類似したものがある。「始め」「やめ」。
最後の列には五ツある。「始め」「やめ」。

第四　検　査

(Eは仕方を示しながら)次のページを出しなさい。上の列に男の子と葡萄とが描いてある列がありませふ。此ページの各列には四ツづつ似合ふた繪があります から前にした様に似合ふて居る各の繪の下に短い横棒を引きなさい。似合ふて居るといふのは形が似て居るか、性質、用ひ場所、繪の意味などが似合ふて居ることをいふのです。一番上の列から始めて其次々と最後の列まで成るべく早くするのです。「始め」……「五分」……「やめ」。

第五章　乙種檢査採點法

答は正否いづれかにして折衷的の採點をしてはならぬ。

第一檢査　命令の實行

1. 要求以外の仕事をした答には點を與へない。
2. 抹殺の代りに下に線を引いたり、十文字の代りに直線を引いたりしたのは誤りとする。
3. 配點。

第一列は一點。二、三、四、五列は各二點。六、七、八列は各三點。九、十列は各五點。十一、十二列は各十點。

第二檢査　繪畫完成法

1. 缺除して居るところを指摘した答は正とする。
2. 缺除して居る部分を適當に補筆して居れば他に附け加へた部分があつても誤

こしない。

3. 配點。

鐵瓶、鋸、木切り、時計、電信は各一點。扇の要、男の姿見は各二點。其他は各五點。

4. 注意。

缺除せる部分は鐵瓶は口、鋸は齒、木切りは斧、時計はさげふり。電信柱は針金、扇はかなめ。姿見は眼鏡、硝子窓は破片。絲卷の影、高い木片には影を長くするか、又は一方の木片を高く重ぬるかの一ツを擇ぶ。藥鑵には口から或は蓋から湯氣、汽車には煙突の烟、海の景色には波、雪路には自動車の車輪の迹。

第三檢査　甲種共通點の發見。

配點。

各列各一點但し第八列は動物を擇ぶも無生物を擇ぶもよし。

第四檢査　乙種共通點の發見

1. 配點。

第一列から第八列までは各一點、九、十、十一は各三點、十二、十三、十四及び十五は各五點。

2. 注意。

共通點の正答は小供、動物、玩具、旅行に關する物、金屬作品、食するにときもの又はよからぬ物、飛行するもの、臺所に用ひらるゝ物、ガラス物、木質のもの、計量する器具、二脚を有するもの、恐るべき動物、夏の景色、親切。

乙種は米國にて賞用せらるるマイヤア法を改訂したものであるからマイヤア氏が使用した結果の一例を略記する。しかし本檢査はマイヤア氏のを大に變更してあるから本邦人に試みれば多少の相違あるは逃れぬところである。

米國ペンシルヴァニア洲アルツウナ。Altoona Pa.。市小學校生徒六千七百七十

四人ハイスクール四年生百八十一人につきマイヤア氏が調査して得た中間得點及び知能率は左の通りである。

A學年別

學年(學年末)	一	二	三	四	五	六	七	八	十二
人員	八九八	八二〇	八三四	八八三	九六九	七二四	六九六	九五〇	一八九
得點(中間數)	一二	一九	二六	三三	三八	四四	四九	五三	六三
知能率(中間數)	、一三	、一九	、二四	、二六	、二八	、二九	、三一	、三二	、二九

B年齡別

暦日年齡	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七
人員	三九九	七四五	七〇九	八〇二	七〇七	七八二	七七八	八〇七	六四一	三三〇	五八	十六
得點(中間數)	九	一六	二三	二八	三四	三九	四三	四七	四九	四九	五〇	四八
知能率(中間數)	、一一	、一八	、二三	、二五	、二七	、二七	、二九	、三〇	、二九	、二八	、二七	、二三

1. ここにいふ知能率は得點を暦日年齡を月數にしたるものにて除したる商に等し。

2. 年齡別の表にては各年共小學校在學の兒童のみを計上したのである。十二歳以上の兒童中其優良なものは中等學校へ進んで居るから此の表にある年長兒童の得點は比較的低くなつて居る譯である。然るに十二歳兒及び其以下の兒童の平均點は已に表に示された通り相當に立派である。此の事實は初等教育に從事するものには大に興味のあることである。

3. 多數の檢査員ありたるに拘はらず總計六千七百七十四人の受檢人中甲僅に十九人のみが採點し得られなかつた。

神戸市の兒童、學生、大人一千四百四十四人につき著者が調査した結果の摘要を記せば左の通りである。

受驗人種別	尋常小學校五學年	同六學年	高等小學校一學年	同二學年	中等學校一學年(男)	高等女學校一學年	同二學年	同三學年	同四學年	同五學年	高等教育を受け居る女子	大人
受驗人員	一九三	二九八	一四	八九	一八〇	二五三	六五	六三	六一	九〇	七八	六〇
最高	八五	八六	八五	七八	八八	八〇	九〇	九〇	八六	九六	九六	一〇〇
中間數	四二	四四	四二	四五	五一	四九	六五	五二	六〇	六七	六二	五〇
最低	二〇	二三	二〇	一五	二八	二七	三五	二五	三五	三二	三〇	二〇

但しここに大人とし たるは年齡滿二十歳以上にして一定の業務に從事せる男子及び少數の女子である。

以上の結果に徴して考へて見ると非常に興味ある事實を發見するのである。之を詳論するは本書の目的でないから省略するが其最も注意を要する數項を擧げると

第一、大人の精神年齡。ゴツダアト、タアマン等の報告に依れば米國軍隊に於ける幾十萬人の檢査の結果は同國軍人の約十分の一は精神年齡十歲以下であつて其大多數即ち百分の七十五は精神年齡十三、四歲の間である。其他の少數が十五、六、七等の優良者であるといふ事である。今私の高等檢査法乙種に依れば大人の平均は全く男女中等學校の一學年生と其精神年齡を等しくする事である。私の大人受驗者の中には學者あり、官吏、政客、教育家等もあれば看護婦、女中、主婦等各種の階級を網羅して居る。教育の程度も最高の教育を受けたるものも、無教育者もあり。其多數は中等教育を受けた人々である。故に私は本邦に於ては大人の精神年齡は米國に於ける如く平均十三、四歲の間にあることを認めるのである。

第二、入學試驗問題。現下教育上の一大問題は中等學校入學難である。而して入學難問題を不良、險惡ならしめ隨所に教育上の悲劇を演出せしむる最大原因は兒童の天稟、素質を精査し之を顧慮する事なく單に素朴な名譽心から可憐の兒童を鞭撻して入學を强制せんとする父兄の熱心である。この父兄の熱心が直接間接に小學校の校長教員に影況を及ぼし心ならすも準備教育等の非教育的な施設をなし甚しきは巧妙な注射的授業をなして平凡な兒童でも往々秀才を壓倒して一時入學の難關を通過せしめる樣な手段を講じ中等學校の當路者に短きは數月、長きも一年にして何故斯くの如き劣等生が入學試驗を及第することが出來たかを驚き且つ呆れさせ。他面には優良者にして失望の餘り自暴自棄に陷らしむる事が決して其例少くないのである。此問題を解決する唯一の道は精神檢査の利用に外ならない。精神檢査の利用とは

一、府、縣、市、町、村は職業指導所を設けて有力な心理學者をして稍精確な精神檢査を施行して兒童の天稟、素質、能、不能を的確に指摘し其兒童が如何なる學校に入學し如何なる職業に從事すべきかを示すのである。

二、小學校及び中等學校に於ては各學科の科學的標準試驗問題を使用して精確

に兒童青年の學業成績を調査し宛も尺度を以て物品の長さを測定するやうに兒童の學業成績を測定すべきである。科學的標準試驗問題又はスケールと稱するは精神檢査を各學科の心理に應用したものである。入學試驗の如き一般的精神檢査と共にこのスケールを用ひたならば決して査定に誤りを生ぜないのである。

三、父兄自ら其愛兒の一般的智能を側定して或は自信を强め、或は進んで專門家の指導を仰ぎ決して無謀な虚榮心に驅られて其愛兒の將來を過るが如きことのない樣にせねばならぬ。それには私の高等精神檢査法甲種乙種を利用せられたならば必ず得るところがあるであらうと信ずるのである。

第三。兵營、工場、官廳、會社、商店等苟も人間を使用するところでは少くとも一般的智能側定を利用しなくてはならぬのである。米國が其軍隊に心理學者教育學者を招聘して精神檢査を施行させた結果精神年齡十歲以下のものは之を戰線に送らなかつたのである。此の事は兵の精鋭能率の向上を實現し得たと同時に軍費の節約に偉大な效果があつたのである。勿論精確な特殊の才能を發見せん爲めには

專門家の檢査に俟たなくてはならぬが其一般的なものに於ては隨時使用人の採否、任免、黜陟に責任ある人の手に於て科學的に檢査せられなくてはならぬ。その目的には本法の如きものは著者自ら推奬して已まないのである。意氣相投ずるとか、敏捷さうであるとか、眞面目らしいとかいふ樣な漠然たる非科學的な認識で人を過り事業を過り尨大な損害を自他に及ぼす事のなき樣廣く精神檢査法の利用せられん事を切望するのである。或はいふ受驗人の方で準備をして置いたなら非常な錯誤を生じて凡骨を天才と認め謬る樣な事があるであろうと。それは皆無とはいへないかも知れぬが多くの經驗に徵すると實例が稀有で且つ虚僞の發見甚だ容易である。

2819
434

大正十二年二月二十日印刷
大正十二年二月二十五日發行

【定價 金參拾錢】

編者 横川四十八

發行者 東京市日本橋區本石町二丁目十五番地 大葉久吉

發行兼印刷者 大阪市西區阿波堀通四丁目二十番地ノ一 柏佐一郎

發行所 東京市日本橋區本石町二丁目
大阪市西區阿波堀通四丁目
神戸市元町五丁目 寶文館

終